図書館研究

第29号
令和6（2024）年度

山口県高等学校教育研究会
学　校　図　書　館　部　会

図書館研究　第２９号

目　次

御挨拶 …… 1
山口県高等学校教育研究会学校 図書館部会 理事長 村山晋一

読書活動の推進について …… 2
教育庁高校教育課 指導主事 武部拓郎

令和５年度総会・研究大会から
・総会、研究大会概要 …… 3
・発表「慶進中学校・高等学校図書館の取組―ビブリオバトルを通して本好きを増やす」…… 5
慶進中学校・高等学校　河村真二
・総会アンケート回答 …… 8

令和６年度総会・研究大会から
・総会、研究大会概要 …… １１
・発表「学校図書館に足を運んでもらうために」 …… １３
山口県立下関北高等学校　鈴木太龍
・研究大会アンケート回答 …… ２２

「読書感想文コンクールに関する意識調査」（調査結果の紹介と論考） …２７
「青少年読書感想文全国コンクール」への対応に関する提言 …… ４０
山口県立防府高等学校　吉野潤（前総務部長）

あとがき …… ４１
山口県立防府商工高等学校　山﨑貴久（総務部長）

ご　挨　拶

山口県高等学校教育研究会
学校図書館部会　理事長　村　山　晋　一

山口県高等学校教育研究会学校図書館部会の皆様におかれましては、平素から本県教育、とりわけ、学校図書館活動の充実、発展に向けてご尽力をいただいており、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、新しい学習指導要領総則では、各教科・科目等の指導について、「生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。」とするとともに、「生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的、主体的に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」とし、これらが、探究活動の充実やＧＩＧＡスクール構想へとつながっています。その一方で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」とし、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには学校図書館の利活用が重要であることを示唆しています。

ここで示されている学校図書館の「機能」とは、言うまでもなく、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の３つのセンター機能を指しています。

「読書センター」としては、これまでも生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場として、学校図書館やその蔵書の活用促進に取り組んでいただいているところですが、ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）の進展とともにタイパやコスパを追求する風潮が強まり、（活字離れではなく）紙の本離れが急速に進んでいます。しかし、読書とは本来、ゆったりと活字と向き合う時間やその余韻を楽しむものであり、読書の持つ深い思考や集中力の向上、豊かな心を醸成する力は、何ものにも代えがたいものです。子どもたちが自由に好きな本を選び、静かに読みふける場を提供する。様々な本を紹介して、読書の楽しさを伝える。学校図書館として当たり前の取組がさらに重要性を増しています。

一方、「学習センター」「情報センター」としては、学校図書館機能の計画的・継続的利活用に向けた授業者への啓発活動とともに、授業者と連携した図書館資料の充実も必要です。さらに、デジタルコンテンツの導入、デジタル・パスファインダーの作成など学校図書館のデジタル化や、ＧＩＧＡ端末を活用した地域図書館等の外部機関との連携も期待されています。

デジタル化が急速に進む中、学校図書館運営は大きな潮目の中にあります。本を読む楽しさや豊かな心を育む図書館（不易）と、デジタルと紙の本をつなぐ知識や情報の集積機関としての図書館（流行）。それぞれの機能を融合した学校図書館運営が、今求められています。

最後に、この研究紀要をまとめるに当たり、御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げますとともに、各学校における学校図書館活動がより一層充実したものとなりますよう祈念申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

読書活動の推進について

教育庁高校教育課
指導主事　武部　拓郎

はじめに、研究誌「図書館研究第２９号」の刊行を心からお喜び申し上げますとともに、読書活動の推進ならびに学校図書館の活性化に向けた先生方の日々の熱心な取組に敬意を表します。

さて、御承知のとおり、令和６年３月に「山口県子ども読書活動推進計画第５次計画」が策定され、今後５年間の本県における子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取組が示されました。基本方針に「家庭、地域、学校等が連携した社会総がかりによる読書活動の推進」が掲げられ、「不読率の低減に向けた読書活動の推進」、「多様な子どもたちの読書機会確保」、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「子どもの視点に立った読書活動推進」等の取組が求められているところです。高等学校においては、国の計画においても指摘されているように、不読率の高さが課題となっており、高校生が主体的に読書に興味・関心を持てるような取組を推進していく必要があります。これまでもお取り組みいただいているところですが、生徒たちが読書を楽しむ習慣を身に付けられるよう、全校体制の読書活動を充実するとともに、授業における学校図書館の活用促進、特に探究的な学習活動における活用等により、学校図書館の利用促進を図っていただきますようお願いいたします。

また、基本方針には、幼保・小・中・高と切れ目のない読書活動の推進を行うことにより、全ての子どもたちが、主体的な読書活動を行えるように必要な体制の整備に努めるとあります。高等学校においても、小学校や中学校における取組を踏まえて、読書活動の推進を行っていくことが求められているところです。

そうした中、本年度は、第３１回山口県学校図書館研究大会山陽小野田市大会が「『生涯の学習基盤を支える学校図書館の在り方』～学びを広げ豊かな心を育む活動の展開～」を研究主題に開催されました。小学校、中学校、高等学校それぞれの研究発表が行われ、優れた実践事例や各学校の現状・課題が共有され、校種を越えて学び合う、大変意義深い研修機会となりました。学校図書館が学校の教育活動の中心となって機能し、生徒たちが知的好奇心を醸成する開かれた学びの場となりますよう、先生方には引き続きお力添えをお願いいたします。

終わりになりますが、先生方のますますの御活躍と山口県高等学校教育研究会学校図書館部会のさらなる御発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

令和５年度高教研学校図書館部会　総会・研究大会の概要

日　時　令和５年９月２９日（金）　13:30～16:20
場　所　山口県立山口図書館レクチャールーム

13:00～13:30	13:30～13:40	13:40～14:20	14:30～15:00	15:10～16:10	16:10～16:20
受付	開会行事	総会	事例発表	研究協議 情報交換	閉会行事

・事例発表；慶進中学校・高等学校　　教　　諭　河 村　真 二
・講　　評；山口県教育庁高校教育課　指導主事　武 部　拓 郎
参加者　３１名（指導助言者を含む）

総会議事

１　令和４年度事業報告・令和４年度決算報告及び監査報告

２　令和５年度事業計画・令和５年度予算

３　連絡・報告（総務部）
・令和６年度研究大会は「第３１回山口県学校図書館研究大会」として実施
総会は、書面会議（メール往来）とする。

４　協議
(1)　次年度以降の部会運営について
・読書ノート事業の廃止により、事業部収入がなくなる。
過年度の残金を切り崩しながら、コンパクトな運営をめざす必要がある。
(2)　読書感想文コンクールについて
・各校の応募数や、地区の規模に合わせた出品数を次年度以降検討していく。
・『青少年読書感想文全国コンクール』への対応に関する提言
生成型ＡＩを悪用した不正使用を防ぐため、文科省からも「読書感想文コンル」に対する慎重な対応が求められている。これを踏まえ、生徒への安易な強制は避けて欲しい。
(3)　学校図書館に係る要望について
・従前のように毎年要望書を作成することはしないが、学校図書館に関し、要望すべきことがあれば、その都度理事長が関係部署と折衝する用意はある。
各校で困ったことや、要望してほしいことがあれば理事長校（総務部）に連絡されたい。

研究協議・情報交換

・参加者全員が班に分かれ、読書活動や学校図書館運営に係る諸々について話し合った。

・話し合った内容を「班別座談会記録」（Word ファイル）にまとめ、Teams で共有した。

協議後の発表要旨

①班　読書感想文について→授業で、選書や書き方の指導をする。スクリーンを使って推薦書の紹介をする。
購入図書の選書について→各教科、SLBA、図書委員による選書　　（図書担当が一人で選んでいるのが現状）
環境について→本棚の不足　　古い本の廃棄

②班　選書について→漫画・・はたらく細胞、まばたきをせず、あさきゆめみし（完結した漫画）
自習室としての利用 時間について→３学年、進路科などに相談
読書感想文→出品作品数の減少

③班　選書について→生徒が読みたい本はライト文芸が多くなるが、規約をよく確認して良ければ入れる
ニーズに合わせた選書が大事　生徒が手に取ってみて、本に出会うことを大事にしてほしい。
学校の生徒の現状に合わせた本との出会い方がある
図書館の環境整備について→一人で取り組むことは難しいので、協力いただける人を探す。

④班　利用者数を増やすための取り組み→スマホを利用？　中高生新聞、漫画を活用（キングダムを読み、歴史について発表）朝読書の時間の活用　ＬＨＲ、授業との連携

⑤班　図書室に入れると良い本→安易に募集するのではなく、実際に「読まれる見込み」がある本を選ぶ。
図書委員会の活動について→ＰＯＰづくり　廃棄する図書の紐かけ、運搬
他図書館との連携→クラスルームに図書だよりを掲載する　全員に図書の活動を知ってもらうことが大事

講 評

山口県教育庁高校教育課　指導主事　武 部　拓 郎

追記；講評の要旨

○ビブリオバトルをしている学校が一定数ある
発表された慶進中学校・高等学校には、高校と中学校が一緒にできるという利点がある。
一人では出会えないほんと出会う コミュニケーションゲーム
自分が普段触れ合わない人と一緒にコミュニケーションをとる
授業とのタイアップなどを通して広がっていくのではないか
細く、長くじっくりと取り組んでほしい

○拡大のためには、かかわってもらえる方が必要 授業での取り組む機会を設け、その中で、施設をもっと充実させたいなどの声が挙がれば、進めていくとよい

○ライブラリ等の外部の力の利用→図書館の認知度が上がる

○子供の読書活動 国の計画 を参照にして、学年で等、できれば全校体制でできることをするとよい

○蔵書について公立図書館との連携　団体貸し出し 探究活動での利用も考えられる

高教研学校図書館部会　令和５年度総会・研究大会

慶進中学校・高等学校図書館の取組―ビブリオバトルを通して本好きを増やす

令和５年９月 29 日(金)

慶進中学校・高等学校　河村　真二

１　本校図書館の紹介

本校の図書館は、通常教室 2.5 個分の大きさで、蔵書数は 10,000 冊程度である。ただし、大半が古い本となっており、新しい本との入れ替えをしていくことが今後の課題となっている。開館時間は、平日の 13:00～17:00 までで、図書館専属の職員（司書教諭の資格を有している方）が１名常駐して、蔵書の管理、貸出などの対応をしていただいている。机と椅子については、30 人学級までは一斉授業が可能な数のものが配備されている。本校では 40 人学級もあるため、現状では一斉授業が行えない学級が存在している。

このように、本校の図書館は、本が古く、生徒のニーズに沿うものが十分に配架できていないこと、机と椅子が十分に設置されていないこと、が大きな課題となっている。

写真：本校図書館

２　本校図書館の取組

ここでは、本題であるビブリオバトル以外の取組を述べていく。

（１）文化祭でのＰＯＰ作成＆展示

委員会活動の一環として、POP 作成を行っている。令和５年度は、SDGs に関連する本を紹介する POP を作成してもらい、文化祭当日に展示を行った。

（２）先生のおすすめ本紹介コーナー

委員会活動の一環として、先生のおすすめ本を紹介するコーナーを設置している。令和５年度２学期の時点で、37 名の先生からおすすめ本を紹介してもらっている。

（３）特設コーナーの設置

時期に合わせて、そのときに必要だと考えられるものを、比較的生徒がよく通行するところに設置している。例えば、修学旅行（関東方面）の時期に合わせて、東京ディズニーリゾートに関する本を設置したり、人権教育に関する LHR を行う時期に合わせて、人権に関する本を設置したりしている。

（４）勝手にコラボコーナー

授業や行事で行っていることに関連する書籍を配架している。特に教科担当などからの依頼で作るわけではないので、勝手にコラボコーナーとしている。

（５）図書館サイトの運営

Google サイトを活用して、図書館の開館情報や、書籍情報、委員会活動に関する情報などをまとめて見られるようにしている。また、生徒からの購入希望図書もこのサイトからアンケート形式（Google Forms を活用）で回答できるようにしている。

３　ビブリオバトル

ここから本題であるビブリオバトルについての本校の取組について述べていく。

（１）目的と年間計画

ビブリオバトルを行う目的は、本稿の表題にしている通り、本好きを増やすこととしている。また、図書館を利用する生徒が少ないため、図書館に少しでも興味を持ってもらうために行うこととした。

年間計画として、5 月、9 月、1 月、3 月の計 4 回実施し、第 4 回目の 3 月はチャンピオン大会とし、5 月、9 月、1 月にそれぞれチャンピオンになった生徒にビブリオバトルを披露してもらう予定としている。また、各回でチャンピオンになった生徒には副賞（文房具など）を用意しており、ビブリオバトルで紹介された本は基本的にビブリオバトル終了後に購入し、特別配架をするようにしている。

なお、公式に行われるビブリオバトル大会のルールに準じて実施している。

ビブリオバトル　質疑応答の様子

（２）第１回ビブリオバトル

5 月 20 日(土)の 12 時から 12 時 40 分に実施した。発表者は 5 名、観戦者は 8 名であった。紹介された本は、『かがみの孤城』といった中高生によく読まれている本から、『山縣公の面影』という現在絶版になっている本まで、個性あふれるものであった。発表も本への思いが伝わる熱いもので、初めての取組としては十分よいものとなった。

生徒の感想からは、「人の話し方や熱意がとても分かって、この人ってこんなことが好きなんだ、と人を知ることができて、とても楽しかった。人が少なく思っていたものではなかった。それでも、楽しく観戦することができてよかった。（中１）」「バトラーの方がみなさん本への愛に満ちていて、聴いていてすごく興味・関心を持てました。（高１）」という肯定的な意見がある一方、「正直、放課後だとなかなか人が来ないと思います。（高２）」という意見もあった。

（３）第２回ビブリオバトル

9 月 25 日(月)16 時 45 分から 17 時 30 分に実施した。発表者は 4 名、観戦者は 4 名であった。紹介された本は、『ライオンのおやつ』や『腹を割ったら血が出るだけさ』といいった中高生によく読まれているものが多かった。中間試験が近かったことや、インフルエンザの流行などで予定していたよりも発表者や観戦者が少なかったが、第 1 回と同じように、温かい雰囲気の中で楽しい時間を共有することができた。

生徒の感想からは、「テスト前という時期だったので、観戦者が少ないのが残念でした。私は本が好きなので、知っている作家さんでも初めて知る本があったので、とても楽しかったです。次のビブリオバトルはもっと人が来てくれるといいなと思いました。（高１）」「今回のイベントで、自分はこの本について知り切れていなかったと感じました。もっと本を理解しようと思いました。周りの人のを聞いて、自分よりきちんと調べているのだなと感じました。（高２）」といった意見があった。

（４）気づき

出場者については、図書委員の中から選出し、その他希望者で募ったところ、第 1 回も第 2 回も希望者で発表をしてくれる生徒が現れ、十分な人数を確保することができた（第 2 回は、インフルエンザによる学級閉鎖がなければ、6 名出場する予定だった）。一方で、観戦者については、第 1 回、第 2 回ともに 10 名以下となり、少ない状況であった。また、第 1 回、第 2 回と連続して観戦してくれた人もおり、本好きを増やすという目的を考えると、裾野を広げることがうまくできていないのが現状である。ただ、少ない人数だからこそ、学校生活の中では交わる機会が少ないであろう生徒同士が本

を通して交流するよい機会となった点は非常に良かったと考える。

4　今後の課題について

先述の「（4）気づき」でも述べたが、観戦者が少ないということが最大の課題である。これについて原因を 2 点に分けて、どのように解決を図っていくかを述べていく。

（1）どのように行うかについて

現状は、対面形式で実施をし、その場で発表し、その場で質疑応答をするという形をとっている。この形式の良さは、その場で質疑応答ができることや、臨場感、場の一体感を持ちながら実施ができることにある。しかし、目的である「本好きを増やす」ことを達成するために、ビブリオバトルをより多くの生徒に知ってもらう必要があると考える。そこで、ICT を活用したビブリオバトルの方法を提案したい。具体的には、動画で本の紹介動画を作成し、全校生徒と共有する形でビブリオバトルを行うというものだ。これはビブリオバトルに参加してくれた生徒が考えたアイディアである。この方法でも Google Forms を活用して質疑応答を行うことができる。つまり、対面と同じようにビブリオバトルで行う発表・質疑応答が実現可能である。こうすることで、対面だと行けない人（部活生や電車の都合などで放課後だと困難な人）もビブリオバトルに参加することができるようになる。ただし、先ほど述べた臨場感が得られないことやその場での直接的なコミュニケーションが行えないことがデメリットとしてあげられるため、実際に行うかどうかは現在本校では検討しているところである。

（2）いつ行うかについて

現状は、公式ルールに則して実施をしている。つまり、本の紹介を 5 分で行い、その後 3 分で質疑応答をする、という形だ。これだと一人当たり最低でも 8 分時間がかかることになるので、複数人（3 名以上）に出場してもらうことを考えると、昼休みの時間では時間が足りず（本校の昼休みは昼食時間を含めて 40 分）、放課後の時間にしか行うことができなくなる。そのため、放課後の時間に実施しているが、これだと先述したように、部活生など参加できない人が多くなってしまう。

そこで、例えば昼休みの時間に縮小した形で実施したり、先述したように ICT を活用して実施したりすることで、可能な限り多くの生徒がビブリオバトルに参加したり、観戦したりする機会を増やすことができると考える。

5　終わりに

ビブリオバトルを通して本好きを増やすという目標を立てて、今年度実施をした結果、残念ながら、本好きを増やすことが十分に達成できてはいないのが現状である。ただ、ビブリオバトルが、本が好きな生徒同士が交流する機会とはなっており、そういう意味ではビブリオバトルを行ってよかったところもあった。

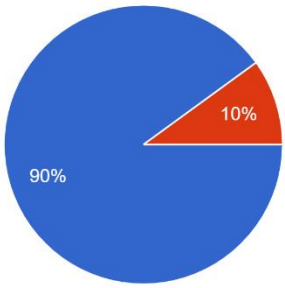
今後は、「4　今後の課題について」でも述べたように、実施の仕方や時間帯などを工夫しながら、まずは多くの生徒が、参加者という形であれ、観戦者という形であれ、ビブリオバトルを経験するということを目指して取り組んでいきたいと考えている。一人でも多くの生徒が本を手に取り、読書にしたしむような学校を目指していきたい。

令和５年度総会・研究大会におけるアンケート集計

回答数１０　Google フォームによる

１　実施時期について

10 件の回答



適当であった。

考査日程との関係で、もう少し日にちが前だと幸せます。

（適当であった…９、その他…各１）

２　会場について

適当であった…１０

３　「総会」の議事につきまして、御意見や御感想がありましたら入力してください。

・読書感想文の強制は chatGPT の不正使用を招くというのは確かにそうだと思います。が、課題にしなければ一点も提出されない学校があるのも事実です。今後コンクールの存続そのものを議論することになるのではないかと考えています。

４　今後「総会」の議題として取り上げてほしいことがありましたら入力してください。

・学校の統合に伴う、理事地区の組み換えなどについて、今後どう対応するべきか。方向性（どことどこが合併する、いやこのままでいくなど）を地区ごとの事情によって自由に要望してよいものか、ある程度、高教研の方針が（他の分会でも合併等があったと思いますが）あるのなら、総会などでお示しいただけるとありがたいです。

・学校司書（事務との兼務ではない）設置を諦めずに訴えてほしいのですが…。

・柳井地区の高校の再編統合方針が著しいので、地区についても再編を取り上げていただきたい。

・要望書の作成

５　今回の「研究大会」（研究発表・研究協議・情報交換・講評）について、良かったと思われることがありましたら入力してください。

・他校の様子が知れてよかった

・他校についてや先生方の話が聞けて、情報交換がとても良かったです。

・とても有意義な研究大会だったと思います。慶進中・高等学校の先生は大変謙虚なご発言が多かったですが、参考になることが多く、早速実践してみようと思いました。情報交換でも、入荷ずみ図書の職員回覧など参考になることが多かったです。ありがとうございました。

・チームスで情報共有しながら研究協議ができたところ。他校の図書だよりを拝見できたところ。
・研究発表・情報交換とも参考になりました。
・他校の事例、取組等を知れたことは参考や励みになりました。
・事例発表も含めて図書館の広報活動にタブレットを用いていらっしゃることに驚きました。昔ながらの図書だよりを掲示・配布している者として勉強になりました。
・発表や協議を通して、他校の様子を知ることができたこと。

６　今回の「研究大会」（事例発表・研究協議・情報交換・講評）につきまして、物足りなかったことや、お困りになったことがありましたら入力して下さい。

・帰りがけに気づいて事業部長にお伝えしましたが、読書ノートの無償配布について気づかない学校があるかもしれないということ。当地区では翌週の感想文コンクールの際に、総会・研究大会に来られなかった先生方にはお伝えしました。
・参加者が増えないこと。

７　今後、研究大会で取り上げてほしいテーマや、実施してほしいワークショップ等がありましたら入力してください。

・図書の実務における実践的な内容がありましたら（図書の廃棄・選書の仕方など)。情報交換で困っている方がいらっしゃっいました。
・選書の仕方
・時間があれば、「らいぶらり」や「ビブリオバトル」を実際に教員同士でやってみるのも面白いかもしれません。
・今回のような研究協議・情報交換はとても役立ったので今後も続けてほしいと思います。
・図書館の飾り、リーディングトラッカーなどの制作。

８　「高教研学校図書館部会」や「山口県学校図書館協議会」の在り方につきまして、御意見や御提案がありましたら入力してください。

・高教研学校図書館部会と山口県学校図書館協議会が同じことをやっているのだとしたらですが、ひとつの組織があれば十分だと思われます。
・総会はみんなで確認・意見のいえる機会なので参加できる・意見がいえる環境をつくれたらいいですね。
・読書感想文コンクール出品作品数など革新的なご意見があり、それはそれで仕方のないこととは思いましたが、下々の意見をくみ上げる機会がもう少しあると良いかな、とも思いました。
・「高教研学校図書館部会」の Teams を作っていただきたい。目安箱として、情報交換の場として活用できるのではないか。Teams を利用して、発行した図書だよりをあげてもらいたい。選書の参考になるし、記事内容の流用が OK であれば、図書だより編集の時間も減るし、発行の契機にもなるのではないか。
現状、活用が進まない YSLA の HP は必要なくなると思います。（私立高の図書館とどう連繋するか、という問題が残りますが、、、）

９　学校図書館運営や読書指導に関しまして、今最も関心をお持ちのことやお困りのことは何ですか？　御自由に入力してください。

・除籍について
・図書館の利用者を増やすための試みを知りたい、ヒントを見つけたいと思っております。
・図書に関わる人員の少なさ。
・協力してくれる人の人数の少なさ
・幾つもの分掌を抱えながら、図書観運営をしなければならないことに困っています。
・忙しくて図書館運営に手が回らないのが現状です。
・運営面では業務改善について。
・読書感想文に関して生徒のモチベーションを上げる方法や、新書など小説以外の効果的な読書指導にも関心があります。
・先行きが見えない学校の再編によって図書館はどのように対応すればよいのか？
・県政は図書館リニューアル（古い蔵書の更新）に関心を持ってほしい。お隣の広島県で物議を醸していましたが、リニューアルの流れがあることだけでもうらやましい。いつまで４０～５０年前の百科事典を飾っておけばいいのでしょうか。

１０　本日の交流を終え、他校の図書館担当教員に対し、ワンポイント・アドバイスや励ましの言葉がありましたら、御入力下さい。

・皆さん、さまざまなご苦労がある中、工夫をされていて、すごいと思いました。大変励みになりました。お世話になりました。
・たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
・お互い頑張りましょう。
・皆さん忙しい中、一生懸命図書館運営をされているのがわかって、自分自身、励みになりました。
・図書館業務を他の先生に手伝ってもらうのはなかなか難しいと思います。それでも何もかも一人で背負わずに、できる範囲で進めていいと思います。
・総会・研究大会ではありがとうございました。学校図書館について努力されている先生方のお話に力をいただきました。
・関係者の皆さんにひたすら感謝です。ありがとうございました。
・図書館運営は、できるところをできる範囲で行う、でいいと思います。ICT を利活用してもっと連繋が取れるといいなと思います。

令和６年度高教研学校図書館部会　総会・研究大会の概要

研究大会（第 31 回山口県学校図書館研究大会山陽小野田市大会）

※令和６年度は小・中と合同の研究大会を実施

期　　日　　令和６年１１月１２日（火）

研　究　主　題　　「生涯の学習基盤を支える学校図書館の在り方」
～学びを広げ豊かな心を育む活動の展開～

日 程 ・ 会 場　　不二輸送機ホール

9:40　10:00　10:30　　12:00　13:00　　14:30　　16:10

受付	開会行事	研究発表Ⅰ 山陽小野田支部 光支部	昼食休憩	研究発表Ⅱ 高等学校	指導助言	記念シンポジウム	閉会行事

研 究 発 表 校　　山陽小野田市立小・中学校　　光市立中学校
山口県立下関北高等学校

記念シンポジウム　　山陽小野田市立図書館長　山本　安彦　氏
児童文学作家　　村中　李衣　氏
こどもの広場主宰　　横山眞佐子　氏

総会（書面にて実施）

議事　　（議案第１号）令和５年度事業報告及び決算報告
（議案第２号）令和６年度事業計画（案）及び予算（案）
（議案第３号）山口県高等学校教育研究会学校図書館部会の規約改正について
（議案第４号）読書感想文コンクールの出品数に関する規定の変更について

（議案第１号）令和５年度事業報告及び決算報告	
可：８１（４１）	否：０
（議案第２号）令和６年度事業計画（案）及び予算（案）	
可：８１（４１）	否：０
（議案第３号）山口県高等学校教育研究会学校図書館部会の規約改正について	
可：８０（４０）	否：１
（議案第４号）読書感想文コンクールの出品数に関する規定の変更について	
可：７４（３５）	否：６

※（　）回答数

［各議案に対するご意見］

○（議案第 4 号）読書感想文コンクール出品数の適正化については、**適正化案（原則２点）が良いと考える**。３点にしても出品数の少ない学校の作品数が増えるのみで、あまり意味はないように思われる。

○４号議案につきましては、実際に出品数に応じた応募数にした場合、**どのような不具合が生じるのか、慎重に検討して結論を出した方がよい**かと思います。教員の負担という面では確かに助かりますが、**読書感想文を書くから図書室を利用する**、という生徒がかなり多いことも事実です。

○議案第４号　運営困難はわかりますが、生徒に読書、文章力がつく機会です。また、入賞は生徒の励みです。読書感想文については、**各地区審査の際に、内容で県審査に出品すべきかどうかを判断した上で提出されているはずなので、改めて規定を変更する必要は無い**と考えます。

○「各校一律５点で校内審査を経たもの」という理解になっているが、１校必ず５点出品されているわけではなく、校内で審査され、５点以内で出品されているところもある。**各校が、校内審査を経て５点以内を出品されるなら、今のままで問題はない**と思う。

○読書感想文の出品数は担当者が変われば大きく変わるもので、**特定の年度の出品数を見て出品可能数を制限することは不適切**だと思います。最近は出品総数が減っていることからも、今までどおり、一校５点まででいいのではないかと思いますし、それがフェアということではないでしょうか。

○議案第２号の予算案について、**R11 山口大会積立**をストップすること自体は賛成でよいのですが、**今の 20 万円で R11 の大会に必要な経費をまかなえているのか**、試算はしてみたのか、など役員会などで確認していくことが必要だと思います。議案第４号については、「応募３点も可」というところに混乱がないように、**しっかり周知していくことが大切**だと思います。

[そのほかのご意見]

○総会で取り上げることではないかもしれませんが……ＰＣのデータをＵＳＢでやりとりができなくなりました。高教研関連の、例えば○○部長とか地区理事などの仕事のデータは、以前はＵＳＢでやりとりしていましたが、これからどうやって引き継いでいけばよいのかわかりません。今はどうやっていらっしゃるのでしょうか。何かよい方法があればご教示ください。

○研究大会は、役員も学校から出張として旅費を認めてもらいたいと思いますが、ほかの教研はどうなのでしょうか？

学校図書館に足を運んでもらうために

山口県立下関北高等学校　教諭　鈴　木　太　龍

１　研究主題について

（１）本校の現状について

ア　下関北高校について

○　本校概要

イ　本校在籍生徒について

○　令和６年度在籍生徒数１１０名（１年生３８名、２年生３６名、３年生３６名）

○　図書委員６名（通年、各ＨＲから１名ずつ）

ウ　本校図書館について（令和６年４月４日現在）

○　蔵書数 19,713 点

（うちＳＬＡ「学校図書館メディア基準」における蔵書配分比率を満たすものは、5・7・9 類）

○　図書館コレクション

●　中本たか子文庫（中本たか子寄贈の図書及び短歌色紙）

●　学校誌（旧文芸誌）「あしかび」及び「葦芽」、「稲穂」

●　「先輩の本棚」（豊北高校卒業生がかかわった著書及び高校生へのコメント付葉書）

（２）本校図書館の抱える課題

ア　図書館利用者数に対する図書の貸出数

イ　漫画以外の図書及び紙の図書に親しんでいない生徒への普及啓発

ウ　図書館での資料の探し方の指導

エ　図書委員の活動時間確保

オ　図書館整備及びレファレンスの拡充

カ　教職員も利用したいと思える図書館への改革

２　読書活動の充実に向けた実践事例

（１）図書館オリエンテーション

ア　実際のレファレンス事例をもとに、自分で本を探してみよう

（２）地域団体「北高夢ロード実行委員会」との連携

ア　読書週間企画「アートの本棚」……芸術関連書籍の出張展示・貸出

イ　「先輩の本棚」……卒業生が執筆もしくは製作にかかわった図書や資料の展示・貸出

（３）校内各所での企画展示

ア　季節や学校行事に応じた関連図書の展示・貸出

（４）授業での活用

ア　教室として利用……令和６年度は「文学国語」及び「地域探究」で利用

イ　図書館資料の提供……授業や部活動の教材や教材研究資料としての提供

（５）学校図書館のデジタル化への対応

ア　オンラインでアクセスできる学校図書館づくり

イ　図書館コレクションの電子化とプラットフォームづくり

３　今後の展望

（１）取組の引継ぎと学校司書・司書教諭の確保

（２）授業・地域連携の推進

（３）学校図書館のデジタル化への対応

目次

1　研究主題について

本校図書館の現状と６つの課題

2　実践事例

図書館オリエンテーション
地域団体との連携
図書館外での企画展示
授業での活用
学校図書館のデジタル化

3　今後の展望

下関北高 在籍生徒数

１１０名（１年生38名、２年生36名、３年生36名）
うち図書委員６名（各ＨＲから１名ずつ）

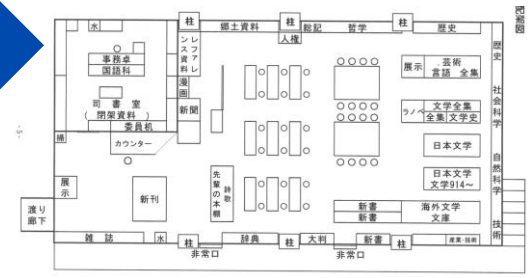
下関北高 校時表

	SHR	1～3時限	昼休憩	4～6時限	7時限
月・水・金	9:10-9:25	9:30-12:05	12:05-12:50	12:50-15:25	掃除 (15:30-15:40)
火　・　木					15：35-16：20

本校図書館について

分　類	冊　数	比　率	基　準
0. 総　記	801	4.0%	7.0%
1. 哲　学	848	4.3%	7.0%
2. 歴　史	2,048	10.4%	16.0%
3. 社会科学	2,097	10.6%	12.0%
4. 自然科学	1,947	9.9%	14.0%
5. 工　業	1,234	6.3%	6.0%
6. 産　業	453	2.3%	4.0%
7. 芸　術	1,786	9.1%	8.0%
8. 語　学	1,008	5.1%	7.0%
9. 文　学	7,441	37.7%	19.0%

令和５年度利用者……３２９人
同　　貸出冊数…５３冊



コレクションについて

本校図書館の課題

教職員も利用しやすい
図書館づくり

図書館利用者数に対する
貸出冊数

資料の探し方の
指導

図書委員の活動時間
の確保

生徒・教職員への
普及啓発

環境整備・
レファレンス拡充

実 践 事 例

①図書館オリエンテーション

②地域団体との連携

③校内各所での企画展示

④授業での活用

⑤学校図書館のデジタル化への対応

図書館オリエンテーション

オリエンテーション
＋文献利用指導

（今年度の事例）
「実際のレファレンス事例をもとに、
自分で本を探してみよう」

資料の探し方の
指導

生徒への
普及啓発

地域団体との連携

北高夢ロード実行委員会との連携

●読書週間における
「アート」関連書籍の展示

●「先輩の本棚」コーナーの設置

芸術の
かたち

ART
の本棚
ギャラリー
夢ロード

62-0050

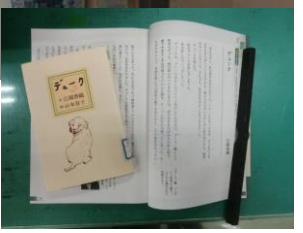
校内各所での企画展示

One for All : All for One.
—自助 奉仕 創造—

入学
おめでとう

授業での活用

●教室として利用
●図書館資料の提供



学校図書館のデジタル化への対応

●オンラインでアクセスできる
●電子化とプラットフォームづくり

図書だより
（生徒用と教員用など）

図書委員関係データ共有
引継ぎ資料

今後の展望

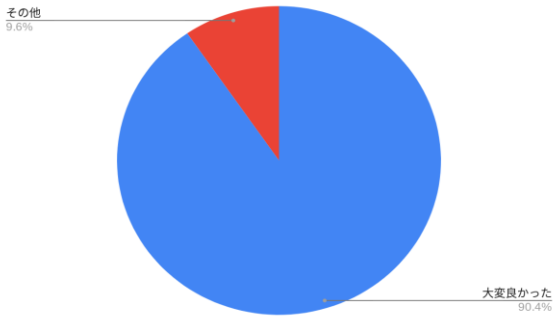
取り組みの引継ぎと
学校司書・司書教諭の確保

授業でのさらなる活用や
地域との連携の強化

学校図書館のデジタル化へ
の対応

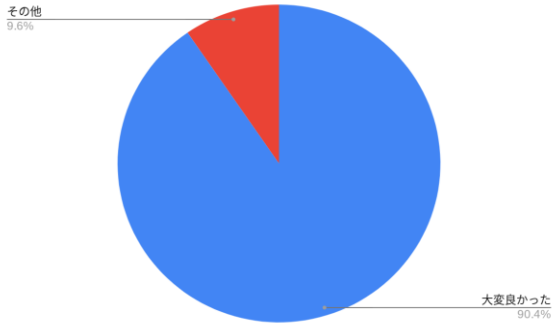
第 31 回山口県学校図書館研究大会（山陽小野田大会）
大会終了後アンケート集計結果

１．開催日について



・大変良かった→９０．４％。県スポーツ大会の直後、市音楽祭と重なっていたや振替休日の翌日だったので、月曜日、火曜日以外が良いという意見があった。

２．日程について



・大変良かった→９０．４％。
・充実した内容なので、短くすることは難しいかもしれないが、半日日程だと参加しやすいのではという意見あり。遠方からの参加で、終わりの時間がもう少し早いと助かるという意見あり。

３．実践発表・講演について（主な意見の抜粋）

○　実践発表では、学校間の連携や公共の機関との連携を積極的に取り入れることで、子どもの読書活動の推進につながっていることがわかりました。
○　他地域でどのような取組、連携をしているのかを知ることができて大変参考になりました。異校種間＆地域連携等
○　異校種の学校図書館教育や、行政、司書、書店などの様々な立場からの視点が、自校や支部の取組を振り返る示唆をいただいた。
○　山陽小野田市の全小中学校に司書配置は羨ましい限りでした。そして子どもたちの読書環境を守るために全市を挙げてのサポート体制が素晴らしいです。市立図書館の貸出資料を個人（児童生徒）が学校で受け取れるのはとても便利だなと思いました。幼保小中のつながりや地域とのつながりを大切にした事例、公立図書館との連携した活動なども参考になりました。
○　実践発表は、どの学校も図書館をうまく活用されていて大変驚きました。図書と児童生徒を「つなげる」取組をされていました。シンポジウムは、心温まるお話が聴け、参加して本当に良かったと思いました。私は日々時間が取れず取組が何もできていないことに焦りを感じていましたが、「読書させようとしなくていい」ことに気づかされました。まずは、いつでもすぐにできるブックトークを通して生徒と本をつなげていくことからスタートさせようと思います。
○　実践発表では、各学校の取組がわかりやすくまとめてあり、自分の学校と照らし合わせながら聞く事ができました。また、質疑の時間も充実した内容で参考になりました。学校図書館の役割を再認識できる発表、受指導、講演でした。あっと言う間の一日でした。
○　電子書籍が図書館ホームページから登録できると知り、是非、登録して活用したいと思いました。
○　本市はまだ電子書籍の導入がありませんが、思春期の子どもたちの心情に寄り添う媒体となることが分かり、紙の本との役割の違いをふまえて色々な情報を伺うことができ、大変参考になりました。
○　蔵書データの一元化は参考になった。高等学校の実態が共有できてよかった。
○　村中さんのブックコミュニケーションのお話は参考になりました。「子どもに本を読ませるのではなく子どもを信じて待つ」というお話が心に残りました。そのような心持ちで子どもと関わっていきたいと思います。
○　学校図書館の役割が沢山あり、その活用に教職員が尽力することが子どもたちの今後の人生を豊かにすることを学びました。ありがとうございました。

● 私の勤務先は総合支援学校ですので、図書館も小さく、公共図書館との連携などとは程遠く、山陽小野田市の市をあげての取り組みがとても羨ましいと思いました。

● ICT 関連の情報が入手できた。それぞれのメリットやデメリットのベストミックスが大事だと思った。今後は、生成 AI の根拠という役割を図書館が担っていくのではないか。小学校でも中学校でも図書館の利用についての授業があるのに、高校の事例で、十進分類法や奥付が初めて分かったという発表があり、教えても教えても聞く耳が無ければ教えていないことと同じなのだなぁとショックだった。

☆ 高校の先生のお話の中に、読書ノートを電子化したというのがあって、はじめて知りました。勤務校は数年後に小中一貫校になる予定なので小中連携が進んでいます。そのため、比較的早く新しい情報を入手できていますが、中高連携は、新しい情報を手に入れる機会が少なく、難しいと感じました。今後は、近隣の高校の公開授業等に参加し、高校の今を知りたいと思いました。

４．その他

○ 山口県の子ども読書を支えるこの三人を講師に招いたことは素晴らしい企画だったと思います。まだまだお話をお聴きしたかったです。

○ 開始時間に余裕があり、本の販売や作品展や各校の取り組みの展示もあり、大変充実した研究大会でした。研究発表や著名な作家の登壇もあり、良かったです。また、機会があれば参加したいです。

○ POP の展示コーナーなど、連携や活動促進の入り口として提案できそうな取組にふれることもでき、大変ありがたい時間となりました。

○ ５年に一度の大会を行う為に、お引き受けから３年を掛け、構想から今日の発表まで、普段の授業をこなしながら発表に向けてのご苦労は、さぞかし大変な事だとお察しいたします。実行委員会の先生方、大変お疲れ様でした。また、学校司書が学校図書館には必要不可欠であるとアピールしてくださいまして、ありがとうございました。

○ 発表やシンポジウムもよかったですが、展示が充実しており、見る価値がありました。終わって見たかった方の声を聞いたので、撤収の時間を変えるか、しっかり宣伝して早めに見てもらうなどすればよかったと思いました。

○ 各所に案内の方がおられてよかったです。お疲れさまでした。

○ 会場が駅に近く、JR を利用して参加できたのがよかった。

○ とにかく、山陽小野田の関係者の方々の本気度が素晴らしかったです。よりよいものにと頑張って来られた成果が当日十分伝わって来ました。参加された方々は、皆さん満足のいく大会となったと思います。参加された方々の学校の取組に活かされること等期待しています。お疲れ様でした。

● 指導助言に関しては、所管説明のように感じた。発表者への助言になるような話を聞きたかった。

● シンポジウムの講演者は別の研修会でも聞いたことがあるので、別の方で現在の教育的ニーズに合わせながら、常に対談しながら、見ている人も和気あいあいになるような、でも参観者が今後の業務に役立つような対談形式のものも聞きたいと思った。

● 研究発表２が長く感じた。指導助言も不要だったのではないか。資料で事足りると思った。

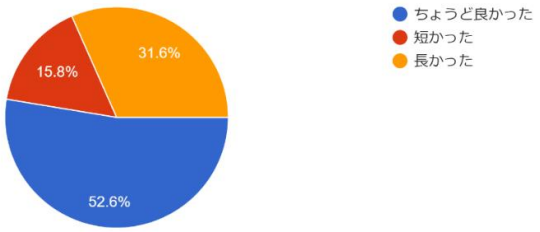
● 開催場所が遠く、移動時間も考慮しなくてはならなかったので、掲示発表などゆっくり拝見する時間がなかったのが残念でした。

● 会場までの距離が遠かった。各支部からの参加するのであればどの支部からもアクセスしやすい会場またはオンラインでの事例発表などがありがたいです。

☆・大規模な大会運営お疲れさまでした。できるだけ資料を残しておいて、５年後中国大会、１０年後の山口県大会に向けて引き継いでおいてほしいです。

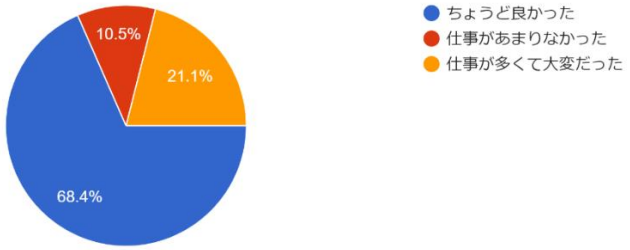
第 31 回山口県学校図書館研究大会　アンケートまとめ

① 準備期間について教えてください。
19 件の回答



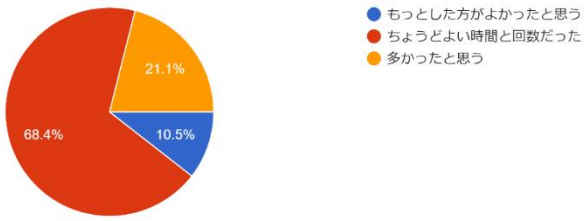
・令和６年１１月１２日の発表に向けて、実質的に動き出したのは令和５年の春から。
・山陽小野田市が引き受けと決まってから具体的な動きがない期間があった。
・見通しをもって、早めに取りかかると実践発表する人・各部の負担も軽くなる。
・具体的な役割分担をしてからは、集中して準備をすることができた。
・図書館展示物の展示があったので、そのための準備期間は必要。

③ 仕事の役割分担について教えてください。
19 件の回答

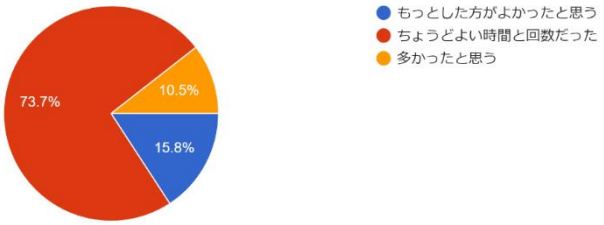


・各部に分かれて仕事を分担したのは良かった。各部内でも仕事が偏らないように役割分担することが必要。
・部の責任者が事前に打ち合わせをしておくともっと効率的に運営できる。

⑤ 実行委員会のもち方について教えてください。
19 件の回答



⑦ 各部会のもち方について教えてください。
19 件の回答



・実行委員会、部会の回数を増やさずとも、チャットでやりとり・確認ができる。
（　チャットをタブレットだけでなく自分の携帯電話にも入れておいた方が良い。）
・今年度の１回目を６月、２回目を８月とし、８月にほぼリハーサルができると良かった。
・早い段階で一つ一つの仕事がどんな内容でどのぐらい大変なのかを話し合い、その後に分担する必要があった。

＜リハーサルについて＞

・リハーサルは、開会式から閉会式までをとおすのがよい。修正箇所の確認をして２回とおせると良い。
・シンポジウムの講師の先生方が使われるものの確認は必要。
・フジ輸送機ホールの場合、音響の方と細かな打ち合わせ(内容、機材、マイクの位置など)が必要。その際、部で内容をつめてからの方がよい。(時間が限られているので。)
・８月にリハーサルがよい。全員が全体の流れのイメージをつかんでおくと、その後の仕事がスムーズにいく。
・他支部の発表データも事前に得ておくと良い。

＜前日準備について＞

・各部で準備をしていたのでスムーズに進んだ。みんなで協力して、早く終わることができて良かった。
・前日準備はパネルなどを運んだり、高いところに掲示したりするため、男手があると助かる。
・出張旅費を前日・当日合わせて前日に渡しておくと、大会当日はその日に支払わなければならないもののみに絞られて良かった。(高額になるので)

＜当日の運営について＞

・みんなが協力し、急な変更等にも柔軟に対応して動けていたので良かった。
・予定していた時刻より遅くなったり短くなったり、臨機応変な対応が求められるため、それを想定していくつかパターンを作っておく必要がある。
・当日は人手が必要なので、手伝いの要請がいる。(学校司書・小教研・シルバー人材)
・ICT 支援員にリハーサルや前日準備・当日に参加してもらえたことがとても良かった。
・シルバーの方との確認が必要。(駐車場・小ホールの見守りの時間)
・受付の時間が予定より遅れた。
・事前・当日の行動計画表があったので仕事の把握がしやすかった。来賓や実践発表者等、誘導を必要とする方に対する誘導表（誰が誰にいつどのように誘導するか）もあるとわかりやすい。

＜研究発表について＞

・各学校が実践資料を提供して、学校司書の配置がある山陽小野田市の良さをしっかりと伝えることができた。
・どの校種の発表も実践に裏付けされた、素晴らしい発表だった。
・質疑応答のときの回答が的確でスムーズだった。
・今後のことを考えると、もっと情報センターとして（AI ・ICT・ネットなどの情報リテラシーなど）の取り組みについてのものもあったら良かった。
・各支部のデータはもっと前にもらっておき、機器との事前チェックをしておく方が良い。

＜その他＞

・大きな研究大会なので、それぞれの時間は守るべき。終了時刻は決まっているので、他の発表者に迷惑がかかる。
・シンポジウムが心に響くとても良い話だった。
・他市の学校司書も参加されていたので、小グループなどで、意見を交換できる時間もあると良かった。
・図書大会の実行委員として参加して、大会を作り上げるためにどんな仕事をする必要があるのか考え、実行することで大変いい勉強になった。
・図書担当として実践したいことが増えたり、図書担当の先生方と校種をこえて交流ができたりして、いい時間を過ごすことができた。
・令和５年度・６年度と各部の先生たちの協力で、形のないものが次々と形になっていった「みんなで創った大会」だった。
・大きな研究大会は、山陽小野田市では初めての経験だったとのこと。人材育成の面からも、この経験は次へ生かせるものだと思う。

「読書感想文コンクールに関する意識調査」（調査結果の紹介と論考）

山口県立萩高等学校　教諭　　吉野　潤
（山口県高教研学校図書館部会　令和四、五年度総務部長）

令和五年二月から四月にかけて標記調査を実施した。調査に当たっては、山口県高教研学校図書館部会を通じ、県内各高等学校の「国語の先生」に趣意書を配布し、これに記載したＱＲコードからグーグルフォームにアクセスし、回答いただいた。趣意書の内容は次のとほり。

（前文略）本部会の活動の中でも、「読書感想文コンクール」は、全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催の、「青少年読書感想文全国コンクール」の下部大会という位置づけで、実施回数も六十八回を数えます。おかげさまをもちまして、このコンクールには毎年たくさんの作品が出品され、本県の学校図書館文化を下支えするものとなっているところです。しかしその一方で、「読書感想文の安易な強制が読書離れを加速する」という批判や、宿題をチェックしたり審査員を務めたりという先生方の御負担の大きさも、無視できない事実として存在しております。

つきましては、実際に指導に当たられる先生方（特に国語の先生方）のお考えをお聞きし、今後の運営に活かしていきたいと考え、この意識調査を実施する次第です。可能な範囲で構いませんので、できるだけたくさんの先生に御回答いただきたく、お願い申し上げます。

二ヶ月にわたって解答を受け付けた結果、四十四件の回答が得られた。今回の調査は、設問数も多く、回答されるだけでもかなりの手間がかかったはずである。更に、自由記述欄への入力も、繁雑だったと思はれるが、多くの方から誠実な御意見を寄せていただけた。

たくさんの先生方から御協力がいただけたことに、まづは心からお礼を申し上げたい。

調査結果を紹介し、管見を述べさせていただくに当たり、私自身の立場を明確にしておきたい。私は、「青少年読書感想文全国コンクール」は、廃止した方がいいと考へてゐる。言語活動の一環として、読書感想文を指導することは有益であり、それを否定するものではない。しかしながら、一団体のコンクールが所与のものであるかのやうに捉へられ、夏休み前になると、いきなり降って湧いたやうに「読書感想文五枚」が課せられる（少なくとも生徒はさう捉へてゐる）。このやうな学校が依然として存在する現状は健全とは言へない。また、このコンクールを実施するに当たり、審査や取り纏めは県内高校の図書館担当の教員が輪番で行ってゐる。特に地区審査や県審査の世話係は、通常の業務に加へ多大な負担を強ひられることになる。私は、高教研学校図書館部会の総務部長として、このやうな負担を後任者に引き継ぐことに躊躇を感じる。

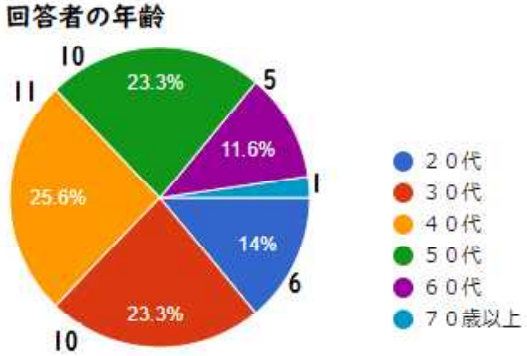
このコンクールが今後存続するとしても、書きたいと思ふ生徒が自主的に参加するもの、若しくはコンクールの趣旨に賛同する先生が、自身の判断で、（他の先生に強制することもされることもなく、）教室での指導の一環として「活用」するものに意識変革していく必要があると感じてゐる。（運営する側としても、「嫌々書かされた」ものを「嫌々審査する」のは「罰ゲーム」でしかない）また、盗用、同一原稿の使ひ回し、生成型ＡＩによる代作等の「不正」を防ぐためにも、生徒への安易な強制は禁物であると考へる。（この件については、令和五年九月に山口県高教研学校図書館部会として「提言」を行った。提言書を末尾に掲載するので、御覧いただきたい）

私は、この調査を通し、「国語の先生」の本音を伝へたい。関係の先生方が、「読書感想文コンクール」と今後どう向き合へばいいか、ゼロベースで考へていただく契機になるなら幸甚である。

調査結果

一　調査に御協力いただいた先生方の内訳

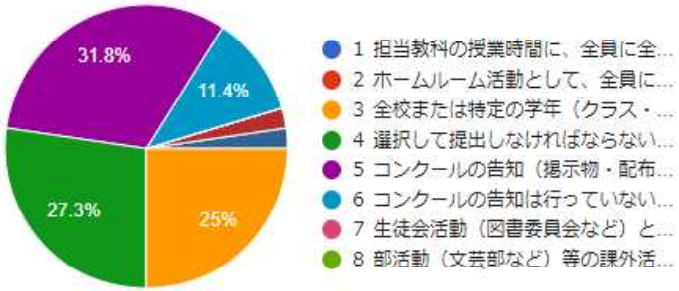
教　科……国語 四十三名、国語以外 一名
所属校種（学科）…全日制普通科 二十四名、
全日制実業学科 十二名、
全日制総合学科 六名、
定時制・通信制 二名
性　別……男性 十四名、女性 二十四名、回答しない 五名
年　齢……二十代 六名、三十代 十名、四十代 十一名
五十代 十名、六十代 五名、七十歳以上 一名



二　読書感想文コンクールに、主としてどのように対応していらっしゃいますか。44件

1　担当教科の授業時間に、全員に全部または一部を書かせる。　0件（0%）
2　ホームルーム活動として、全員にＬＨＲ等の時間に全部または一部を書かせる。　0件（0%）
3　全校または特定の学年（クラス・コース）の全員に読書感想文を宿題として課す。　11件（26%）
4　選択して提出しなければならない宿題の中に、読書感想文を含める。　12件（28%）
5　コンクールの告知（掲示物・配布物等を含む）はするが、提出は任意とする。　14件（33%）
6　コンクールの告知は行っていない。（読書感想文にはかかわっていない）　5件（12%）
7　生徒会活動（図書委員会など）として、所属する生徒に応募を呼びかける。　1件（2%）
8　部活動（文芸部など）等の課外活動として、所属する生徒に応募を呼びかける。　0件（0%）
9　無答　1件（2%）

※3と4を合はせて五割強なので、宿題にする・しないはほぼ半々といふところか。私は「読書感想文コンクールへの応募の強制はやめよう」と主張してゐるが、それでも「1」や「2」のやうな形でなら、全員で取り組むのも「あり」だと考へてゐる。その意味では、「1」「2」が皆無だったのは残念である。「4　選択課題」は他の何と選択させるのか」によって強制の度合ひは異なる。読書感想文以外の課題が極端に高度なものであったりすると、実質的に読書感想文を強制したことになってしまふ。「5　告知はしても強制はしない」が最も多かったことにほっとした。「6告知しない」も一定数存在するが、「告知・募集」自体も、学校や先生方に強制すべきものではないことに留意しておきたい。（末尾「提言」参照）「図書委員に書かせる」といふ回答もあるが、ホームルームや部活動での取り組みは皆無である。読書感想文は、やはり「国語の宿題」といふイメージが強いのだなと感じた。



●1～4を選んだ理由（二十二件の回答）

(イ)　読書感想文を書くことが、学習活動として有益であると考えるから。　10件（44%）
(ロ)　観点別評価を行う上で、他に適当な材料がないから。　0件（0%）
(ハ)　コンクールで入賞させたいから。　3件（14%）

(ニ) 勤務校の前例や、他の先生への配慮や同調から。　　７件（30％）
(ホ) （その他）読書の推奨、長期休暇に本を読んでもらいたいから。　　２件（９％）

※設問項目が多く繁雑なこの意識調査に協力くださった先生は、読書感想文コンクールに対し、何らかの強い思ひをお持ちの先生だらう。その点では、「(イ) 学習活動として有益」が半数以上であることは想像どほりである。生徒にもっと本を読んで欲しいといふ思ひは多くの教員が持ってゐるところだと思ふが、「(ホ)（その他）読書の推奨」が二件に留まったのは、「読書感想文コンクールに応募させること」が「読書の推奨」の唯一の手立てではないことを示してゐる。国語教員としての肌感覚としては、多くの国語教員には「(ニ) 勤務校の前例や、他の先生への配慮や同調」といふことがありさうなものだが、このような自主的に回答いただいた調査ですら三割に及んでゐる点は見過ごせない。「(ロ) 観点別評価」のためにこのやうな宿題を課してゐる先生もいらっしゃるのではないかと思ってゐたが、今回０だったのは意外であった。

●宿題として提出された作品を読んだときの感想（１～４を選んだ方の内、二十一件の回答）

ア 本をしっかり読み込み、主体的に考察して書かれたものが多かった。　　３件（14％）
イ 本を読み込んだ結果としては物足りないものが多かったが、前向きに取り組んでいた。　　６件（27％）
ウ 提出すること自体が目的となっており、内容が空疎なものが多かった。　　12件（54％）
エ 生徒の作品を読む時間が無かった。　　０件（０％）
オ その他（無回答）　　１件（５％）

◆補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・生徒の内面にかかわれたような気がして、教員としてもプラスになったと思った。
・すべてではないが、盗用や使いまわしなどが横行している印象がある。ただ、中には生徒の知らない一面を知ることができたり、深い洞察がうかがえたりなど新たな発見もある。
・この生徒がこんなことを考えているのかという発見が楽しく、今年３００人分を一人で見ましたが、大変だという気持ちより、充実感の方が勝っていました。
・もちろん中には、いい加減なことを書いたり、字が異常に汚いものもありましたが、それも生徒を知るという意味では意義深いものでした。
・面白い書き方ができる生徒がいる。
・ごくまれに、興味深い感想を書いてくる生徒もいますが、「やっつけ仕事」になっている生徒も多いです。

※私自身は読書感想文を宿題として課すことには反対だが、それでも「書かされた」生徒の身になって考へるなら、肯定的な回答が一定数存在することには安堵する。しかし、「提出すること自体が目的となっており、内容が空疎なものが多かった」は、私が当初予想したとほり、半数を超えてゐる。一部の生徒がパフォーマンスを発揮する場であっても、大半の生徒が「ただやらされるだけ」になるのであるならば、一律に強制する必要はないのではないか。是非とも熟考されたいものである。ただし、補足意見を拝見し、すばらしい作品に出会へた時の喜びについては、全面的に賛成する。

●５～８（または「その他」）を選んだ理由（二十件の回答）

(イ) 読書感想文（またはコンクール）には賛同できるが、強制するものではないから。　　９件（48％）
(ロ) 自主的に作品を提出した生徒に、観点別評価において高評価を与えたいから。　　０件（０％）
(ハ) 読書感想文を書かせることよりも、別の課題に取り組ませたいから。　　２件（11％）
(ニ) 読書感想文コンクールの在り方に賛同できないから。（対応する余裕がないから）　　４件（21％）

㈱（その他）・指導するための時間がとれない　各１件

・国語科と相談し宿題にはしないこととしたから。

・読書ノートを夏季休業中の課題としており、重複を避けるため。

・本校では読書ノートの課題があるため、感想文は告知のみにとどめています。また、課題図書という良書（恐らく）を紹介することで有意義な読書活動につなげることを意図しています。

・無回答

※「㈠ 読書感想文（またはコンクール）には賛同できるが、強制するものではないから」が半数に迫ってゐる。「生徒に強制すること」を問題視される先生も多いといふことである。また、「㈡ 読書感想文コンクールの在り方に賛同できないから。（対応する余裕がないから）」については、このコンクールが、教員に業務外の負担を強ひることになるといふ問題点（私はこれを最も問題だと考へてゐる）と関連付けて考へたい。読書ノートとの関係については後述する。

◎補足意見（二 全般について　自由記述）※原文ママ引用

・コンクールに消極的な部長さんの年に大きな変更をするのはやめたほうがいいと思います。

※この問ひの補足としてはいささか唐突である。私は高教研学校図書館部会の総務部長として、「読書感想文コンクールの作品募集に当たっては強制にならないやうにしてください」とは述べてゐるが、意識調査を行ふことを以て、「コンクールに消極的」で「大きな変更」を企んでゐると判断されるのには飛躍がある。他の回答から推測するに、この方は、コンクールに強い思ひを持って取り組んでいらっしゃる年配の先生とお見受けする。（そのこと自体には深い敬意を表する）コンクールに長年取り組まれた先生にとっては、これに疑義を差し挟むこと自体が禁忌なのだらう。

・このコンクールで山口県はここ２、３０年で５回以上は全国１位、２位の成績を収めたことがあったのではないかと思います。コンクールへの作品応募が読書の強制になるとは思えません。というよりここで強制されて読書ぎらいになる生徒は、強制されなければ高校３年間に一度も本をきちんと読まないのではないかとそちらが心配になります。ただ読むのと感想文を書くための読書は質が違います。学校によっては難しいというご意見があるだろうことは想像されますが、ぜひ現行の形を続けていただきたいです。

※「コンクールへの作品応募が読書の強制になる」とあるが、そのやうな主張は聞いたことがない。学習指導とは、何らかの「読書の強制」を伴ふものなのだから、読書を「強制」するなとは誰も言ってゐないはずだ。「読書を強制（勧奨）」することと、「読書感想文コンクールへの応募を強制すること」は全く別の問題である。また、末尾に「続けていただきたい」とあるが、これは他の誰かに対して、「業務外の負担を引き受け続けてほしい」と述べてゐるのと同義である。

・難しいからこそ、やりがいはある。

※さう思はれる方もいらっしゃるのだらうけれど、輪番制によってさうは思はない方にも引き受けていただかなければならない現状を何とかする必要はあるだらう。

・以前は「１年生は夏季休業課題として全員強制」でしたが、昨年度（R3年度）から、「選択し提出しなければならない宿題の一つ」としました。「読書感想文を含むいくつかの作文コンクールの中から、一つを選択し提出する」ということになっています。

・読書ノートでの取り組みを行っており、内容が重なるため、読書感想文は行っていない。

・今後、読書ノートがなくなるということで夏休みの課題が読書感想文へシフトしていきそうです。

※「読書ノート」は、令和五年度まで山口県学校図書館協議会で作成し、各校に頒布してゐたが、作

成や頒布を担当する教員の負担の大きさと、会計処理の困難さから、廃止された。読書歴の記録として、読んだ本の内容や所感を一頁にまとめる読書ノートと、コンクールへの応募を前提にして原稿用紙五枚にまとめる読書感想文は、性質が異なる。読書ノートが無くなったからといって、読書感想文コンクールへの応募を強制すればいいと安易に判断できるものではない。

三　担当する生徒の作品を読んだり、添削や評価したりすることに対して、負担を感じられることはありますか。（44件）

1　教育活動として有意義な仕事であり、苦痛は感じない。　6件（13％）
2　負担感はあるが、教育活動として有意義な仕事である。　13件（30％）
3　苦痛とまでは思わないが、特別に意義がある仕事だとは思わない。　12件（27％）
4　それほど有意義な仕事だとは思えず、苦痛である。　10件（23％）
5　読書感想文関連の業務に携わったことがない。　3件（7％）

※意義を見出せるかどうかはほぼ半々といふことか。ただ、回答を年齢別に分けてみると（グラフ参照）、二十代～三十代の先生は、「意義を感じない」が八割を占めてをり、（四十代以上は四割弱）意義を感じるかどうかは、年齢層によって逆転してゐる。年長の先生が、御自身は「有意義な仕事」と思はれたとしても、それを若手教員に押しつけることにならないやう留意していただきたいものである。

◎補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・長い休み明けの時間があるときに作業をするのでほぼ負担感はありません。

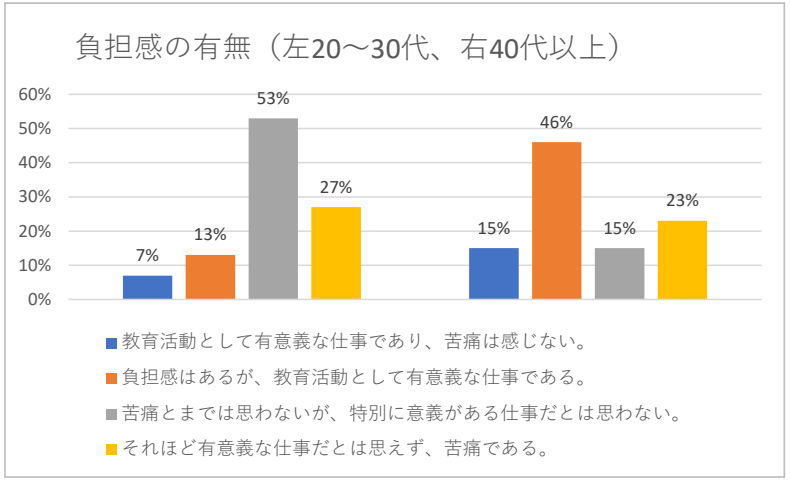
・読むこと自体はそこまで負担には感じていないが、生徒の盗用に教員側が気づけなかった場合の対応など、疑問や怖さを感じる。

・コンクール応募までに時間を考えると（夏休みの宿題にした場合）きついのは確かですが、負担と思わず、生徒を知るチャンスという意識で読めば負担感はありません。

・本校は、夏季休業課題として読書感想文を課しているため、生徒が提出してから、校内審査をして地区審査へ提出するまでの時間が短く、しっかり読むことができないのが実情です。

・生徒の作品を読むこと自体には、生徒の表現力、内面を把握できるなど利点はあるものの、負担感は大きい。

※感じ方は人それぞれといふことか。ただし、他の教員に対する「精神論」の押しつけは避けたい。



四　読書感想文を募集されるに当たって、コンクールの趣旨や題材の選び方、感想の書き方等を、どのように指導していらっしゃいますか。（43件）

1　授業の中で時間を取って全員に指導する。　6件（14％）
2　希望者を集めて指導する。　0件（0％）
3　特に指導はしていない。（質問があれば指導する）　37件（86％）

◎補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・進路にかかわる文章を書く練習にもなるので、全体指導で丁寧に選書や記入の仕方を説明している。

・感想文自体を評価することにも疑問があり、またそのための指導も難しい。

・教員・生徒ともに「時間がない」の一言に尽きると思います。

・読書感想文については課題図書の紹介、他の作文コンクールでは応募の案内など、図書だよりでは微力ではあるが編集して載せている。それをもって全く指導していないわけではないので、選ぶ選択肢がなかった。

※宿題にするのなら、事前指導はあってしかるべきである。「夏休みの課題一覧」に読書感想文を掲載し、提出しない者には減点等のペナルティーを与へるといふやり方は、不正の温床となるといふ意味でも、今後許容されなくなるだらう。（「提言書」参照）「事前指導が負担」とか「指導する時間がない」といふことであるなら、読書感想文を宿題とすること自体を再考してみられてはいかがか？

五　《「夏休みの読書感想文」が読書嫌いを加速している》という意見がありますが、どのようにお考えですか。

1　その通りだ。　2件（5％）

2　そういう面もある。　22件（50％）

3　当たらない。　20件（46％）

※ネット上でしばしば話題になるこのことについて聞いてみた。肯定・否定はほぼ半数である。

◎補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・読書感想文を書くことは負担になるかもしれないが、読書感想文を提出させることに過剰な指導を行うことがなければ、読書感想文を書くことで読書嫌いができるとは考えられない。適切な指導や評価の工夫によって、逆の効果が期待できるのではないだろうか。今後も、表現の機会を増やし、書くことについての指導もできるだけ充実させていきたいと思う。

※この御意見には私も同意する。問題は、教員に業務外の負担を強ひるコンクールを所与のものとして、一律に宿題にして書かせて当然といふ風潮がまだ残ってゐることである。

・教育課程の改編でますます小説に触れる機会が減る中、読書感想文コンクールは何が何でもやらなきゃ、と思います。

※御自身の教育活動として「何が何でもやらなきゃ」と思はれるのはいいけれど、審査や運営は誰が「やる」のか？　といふことも考へていただきたいものである。

・感想文を書かされることで読書嫌いになるのではなく、読書嫌いだから感想文を書くのが嫌なのではないでしょうか？

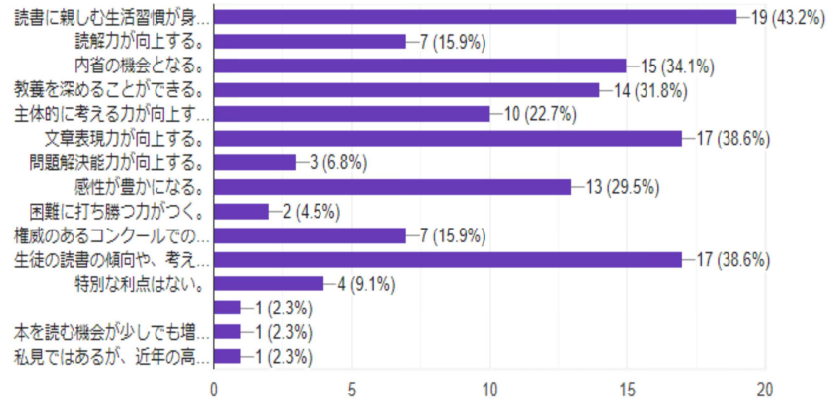
※自分が「読書嫌ひ」だと思ったことはないが「読書感想文」を「書かされる」のは「嫌」だな…

・読書感想文に限らず、どんなことでも強制されたら嫌いになるものだと思います。

※全くそのとほり！

六　読書感想文に取り組むこと（またはコンクールに応募すること）には、他の学習活動と比べてどのような利点があると考えていらっしゃいますか。（複数回答可）

1　読書に親しむ生活習慣が身につく。　19件
2　読解力が向上する。　7件
3　内省の機会となる。　15件
4　教養を深めることができる。　14件
5　主体的に考える力が向上する。　10件
6　文章表現力が向上する。　17件
7　問題解決能力が向上する。　3件
8　感性が豊かになる。　13件
9　困難に打ち勝つ力がつく。　2件
10　権威のあるコンクールでの入賞という目に見える成果が得られる。　7件
11　生徒の読書の傾向や、考え方を知ることができる。　17件
12　特別な利点はない。　4件



◎「その他」及び補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・本を読む機会が少しでも増えると思います。

・私見ではあるが、近年の高校生にとって文字とは「横書き」かつ「打つ」ものであるという認識が広まっているように感じる。殊に高校卒業後は文字を書く機会は殆ど失われて久しく、文字の意味や成り立ちに向き合うことはない。「縦書き」「手書き」で日本語を長文で「書く」最後の機会になる可能性がある高校の学習活動において、読書感想文は取り組む価値を有しているものと考える。

・賞品があればよいが、高教研に予算がないので、その時の気分ではあるが自腹で副賞を準備することがある。

・入賞すれば励みになります。また、高校時代、一度くらいはきちんと本を読んで感想文を書く機会を与えることは有意義だと思います。コピペの問題があったとしても、原稿用紙に文字を書くことは大切なことだと思います。

・小学校・中学校で経験してきた課題・コンクールでもあり、得意な生徒が自信をもって臨める課題・コンクールなのかなと思います。

※私も読書感想文を書くことそのものの意義を否定してゐるわけではないので、「利点」として思ひつくものを選択肢に挙げることはできるし、私自身もそのいくつかを選択する可能性はある。また、補足意見に「縦書き」「手書き」の価値に言及されたものがあるが、これにも同意できる部分はある。ただし、これらの「利点」の多くは、平素の学習活動で実現できるものであり、「読書感想文コンクール」といふ一団体の行事参加しなければ得られないものではない。「読書感想文の利点」と「コンクールへの『動員』」は分けて考へる必要がある。

七　現行の「読書感想文コンクール」について、不満や困難を感じていらっしゃることがありますか。次の中に近いものがありましたら選んでください。（複数回答可）

1　生徒に強制することになりがちである。（「生徒の負担になる」を含む）　16件
2　本を味読した結果ではなく、体験や道徳的内容を評価するものになりがちである。　8件
3　提出することが目的化し、盗用や使い回しも横行し、学習活動として有効ではない。　21件
4　原稿用紙５枚という分量が多すぎる。　8件

5　原稿用紙５枚では少なすぎる。　　0件
6　ワープロ原稿が認められていない。　　7件
7　題材を紙の書籍に限定している。（電子書籍は対象外）　　6件
8　課題図書が適切ではない。（「つまらない」「選び方に疑問がある」を含む）　　4件
9　生徒の「感想」を評価すること自体がナンセンスだ。　　9件
10　担当する生徒の作品を入賞させることにプレッシャーを感じる。　　5件
11　担当する生徒の作品を読むことや、添削や評価をするのが負担である。　　17件
12　輪番が来たら審査員を務めなければならないのが負担である。　　10件
13　特に問題は感じていない。　　10件

◎「その他」及び補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・盗用などが見られることには苦慮しているが、学習活動として有効でないかどうかは別の観点であるため、選択できませんでした。

※確かに、全員が盗用してゐる訳ではないから学習活動として有効でないとはいへないのではないかといふ反論は成立する。ただ、盗用ではないか？　本当に読んだのか？　などと疑ひながら生徒の作品を読むのは、私には多大なストレスである。（盗用を見逃して評価してしまふとしたら、国語教員はピエロを演じることになる）

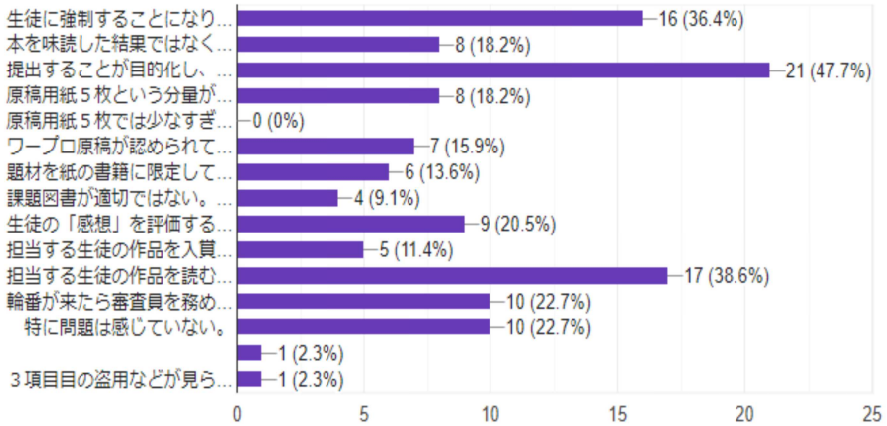
・コンクールで生徒の言葉を介して「読書」をさせてもらえることは、大きな喜びです。

※それは皆さん「百も承知」でせう…「不満や困難」を選択肢として列挙されること自体、腹に据ゑかねるといふ向きもやはりいらっしゃるといふことか。

・現在の（従来の）形式を守ることが目的になっていて、目的や効果を考えて行われていない、また、それらを考える時間もないという感じがします。

※問題はまさにそこ！　現状を何とかしたいと思っても、多忙に紛れて改善は先送りされていく……「当番になった年だけこらへりゃ、あと数年はやらなくて済む……取りあへず現状維持が一番楽」といふことで結局何も変はらないまま次期当番に引き継いでしまふ。私も総務部長として、さうなりつつあるのが申し訳ないところだが、この調査をとほして問題提起だけはさせていただく。

※「特に問題を感じていない」とされる回答が一定数あったことは素直に受け止めたい。ただ、「読書感想文コンクール」の審査・運営に係る負担を踏まへられての御回答なのだらうか？　もちろん、「私なら喜んで引き受ける」とおっしゃる先生もおありだらうとは思ふが、やはり「読書感想文そのものの問題」と、「コンクールの問題」は分けてお聞きした方がよかったのかな…と反省してゐる。



八　県や地区の審査に、輪番の審査員や高教研学校図書館部会の役員として参加されたことがありますか。（44件）

1　ある　31件（70％）
2　ない　13件（30％）

●県や地区の審査を担当されて、どのようにお感じになりましたか。（31件）

(イ) とても有意義な仕事であった。また関わりたい。　5件（16％）

(ロ) 負担は感じるが、有意義な仕事なので、輪番が回ったら引き受ける。　13件（42％）

(ハ) 苦痛ではないが、特に意義を感じることもない。　5件（16％）

(ニ) 苦痛であった。できればもうやりたくない。　7件（23％）

（その他）主観的な良い悪いを言いにくい。　1件（3％）

◎補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・負担感はあるとは思いますが、ほとんどの国語の教員は、生徒の作品を読んで評価することを無駄だとは思われないのではないかと思います。

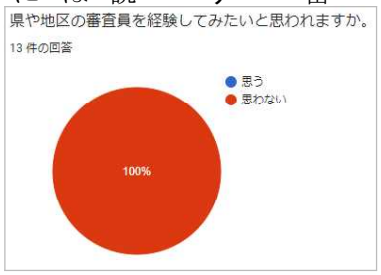
・年に一度のことです。負担はありません。

・審査をすることに対する不安やプレッシャーがあります。また、審査会を運営する学校の負担が大きいと感じます。

※審査を経験された先生の半数以上が「有意義」（イ）（ロ）と回答されてゐる。しかし、三十代以下の先生方の内訳を見ると、「有意義」（イ）（ロ）は、九人中三人に留まってゐる。また、「もうやりたくない」も、九人中三人であった。

更に、審査員の経験が「ない」十三名に「審査員を経験してみたいと思われますか」と聞いたところ、全員が「思わない」であった。

「まうやりたくない」「したいとは思はない」と考へていらっしゃる先生に、「読書感想文コンクールの審査」といふ業務外の負担を無理に強ひることがあってはならない。このコンクールを、将来にわたって輪番制で運営することに、大いに疑問を感じる。



九　「読書感想文コンクール」に、どのような形で対応することが望ましい（または「可能である」・「負担が少ない」）とお考えになりますか。（44件）

1　国語の授業時間に、読書感想文の全部または一部を書かせる。　3件（7％）

2　読書感想文を、国語科の宿題として書かせる。　10件（23％）

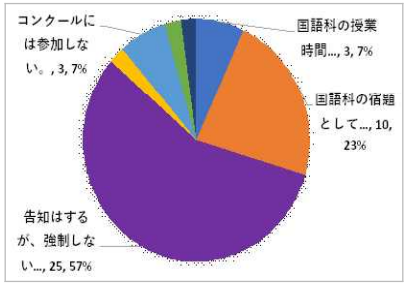
3　コンクールの告知はするが、提出を強制はしない。　25件（57％）

4　部活動（文芸部など）として所属する生徒に取り組ませる。　1件（2％）

5　コンクールには参加しない。　3件（7％）

（その他）国語科の問題ではなく、学年や学校の問題としてとらえて全員に取り組ませる。

色々なコンクールの一つとして対応すればよい



※「二」で紹介した現状から、数年の内に移行していく姿だと思はれる。「告知はするが強制はしない」が半数を超え、強制の度合ひは低くなっていきさうである。また、宿題としての在り方も、事前指導や事後指導もなしにただ提出させればいいといふやり方は再考が求められることになる。もちろん、コンクールには参加しない（告知しない）といふ在り方もあっていいし、授業で取り組む、学校全体で取り組むといふのもあって結構。部活動で取り組むといふのも検討されていい。また、作文コンクールはいろいろあるのだから、高教研加入校だからといって、全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催の、「青少年読書感想文全国コンクール」を特別扱ひする必要は全くない。

このやうに、コンクールへのスタンスが多様化し、「審査員は、作品を出品された先生の中から選出

する」といふやうな申し合はせに移行していくなら、「審査に係る負担感」も、取り敢へずは軽減するのではないか。

十「読書感想文コンクール」は、今後どのような形で運営されるのが望ましいとお考えになりますか。（44件）

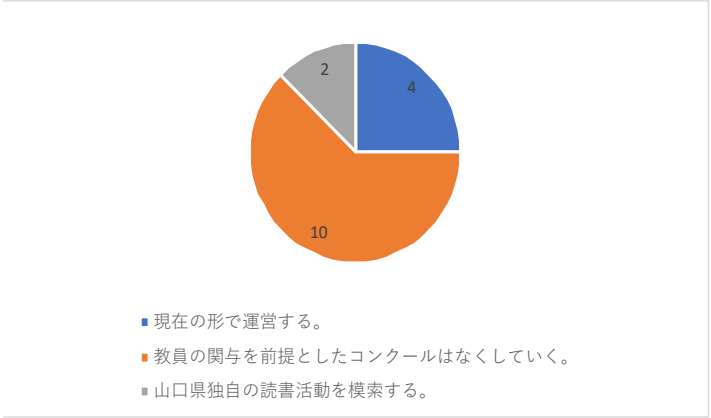
1　現在の形で運営する。　20件（45％）
2　現行の「読書感想文コンクール」には参加せず、山口県独自の読書活動を模索する。　2件（5％）
3　教員の関与を前提としたコンクールはなくしていく。　20件（46％）
（その他）無回答（2件）

・「原稿用紙に文字を書くことに困難を感じる生徒のために、ワープロ原稿を許容する。」は、現在既にそのやうに運用されてゐるため、「現在の形で運営する」としてカウントしました。

※「現状維持派」と「廃止派」が同数といふ大変興味深い結果であった。しかし、これも年代別に見てみると、三十代以下と四十代以上とで、「廃止派」と「現状維持派」の割合が逆転してをり、三十代以下は「廃止派」が六割を超えてゐる。先生方の意識変革は進んでゐる。「読書感想文コンクール」に限らず、何かの催しを成立させるために、教員（や生徒）を安易に「動員」すればいいといふ発想はもはや受け入れられないものとなりつつあるのではないか。

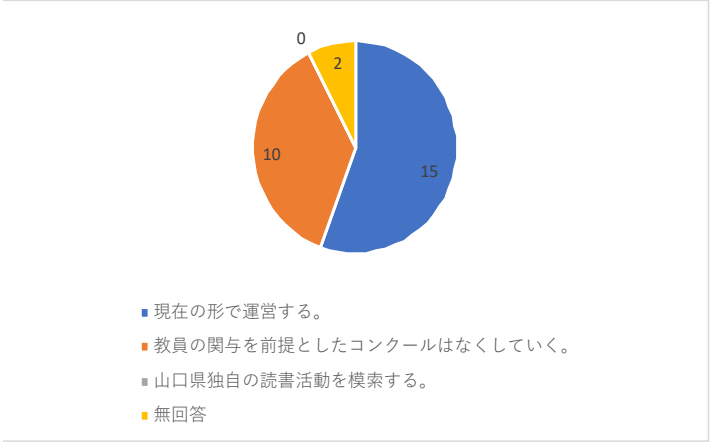
２０～３０代

現在の形で運営する。	4	25%
教員の関与を前提としたコンクールはなくしていく。	10	63%
山口県独自の読書活動を模索する。	2	13%



４０代以上

現在の形で運営する。	15	56%
教員の関与を前提としたコンクールはなくしていく。	10	37%
山口県独自の読書活動を模索する。	0	0%
無回答	2	7%



ＳＮＳの発達により、教員も生徒も、手に入れる情報は一様ではない。「青少年読書感想文全国コンクール」が、「夏休みになれば宿題として出されて当然」といふ時代はとっくに終はってゐる。また、「生徒の作文添削は《自発的行為》である」とする判例もあり、あまつさへ外部の団体の行事である「読書感想文コンクールの審査員」を引き受けることは、完全に任意のはずである。「感想文の審査を面倒くさがるなんて教師として失格だ」といふやうな批判は、的を射たものではない。

※「山口県独自の読書活動を模索する」を選ばれたお二方は、いづれも二十代の先生である。現状の打破を希求する若い先生の気概に強い共感を覚える。「読書感想文コンクール」も、当初は志ある先生方による清新な企画だったはずである。それが、組織が肥大化し、長年続けられることによって

続けること自体が目的になるといふ弊害を生じてゐる。「山口県独自の読書活動を模索する」なら、有志教員によって、生徒に強制することなく、単発的に試行できるやうなライトな催しであることが望ましい。高教研学校図書館部会には、このやうな活動を後押ししていけるやうな部会であってほしいものである。

◎補足意見（自由記述）※原文ママ引用

・読書ノートもなくなってしまったので、読書感想文コンクールは今後も続けていただきたいと思う。

・全国コンクール自体が変わっていくことはあるかもしれません。今年の全国内閣総理大臣賞の作品を新聞で読み、感心しました。このような感想を持つ生徒がいる限りは続けてほしいものです。

※「続けていただきたい」「続けてほしい」とあるが、審査や運営に関する業務外の負担を「誰が引き受けるのか」といふことを考へていただきたいものである。

・読者感想文以外にもコンクールはたくさんあるので、このコンクールを全体として強制するのには違和感があります。

・読書をし、感想を書くのが好きな生徒・得意な生徒はいると思います。そんな生徒が自己表現をする、自己肯定感をえる「きっかけ」としてのコンクールになればいいのだと思います。また、時代の流れとして、教員の負担感を少しでも軽くしていく必要はあると思います。（これは、読書指導だけに限りませんが……）

・鉛筆を握ることが難しかったり、書字障害の傾向をもっていたりする生徒などにとって、原稿用紙に手書きする形式の読書感想文は取り組むことに大きな苦痛を感じることだろう。また、どれほど内容に優れた作品を書いたところで規定により正しく評価されないという事態は避けるべきである。生徒の事情に応じた配慮として、ワープロ原稿による読書感想文の評価基準を設けるべきであると考える。他方で、日本語を縦書きかつ手書きする経験は、生徒にとって必要な活動である。特別な事情がない生徒に対しても無制限にワープロ原稿を認めるような、安易な変更はしない方がよい。

※「自筆での応募が難しい場合」理由書を添へることを条件に、ワープロ使用は認められてゐます。念のため補足

※入試小論文や、志望理由書、記述試験の論述問題に対応させるためにも、「手書き」の課題に取り組ませることは必要である。しかし、コンクールへの応募を前提とした読書感想文は、特定のテーマを持たず、しかも二〇〇〇字といふ大部である。読書感想文を書くために生徒が読んだ本を教員も読んでゐるとは限らないし、全員の作品を添削し、指導することは極めて困難である。文章力の指導といふことでは、問題演習や数百字程度の要約課題・一言感想の方が有効なのではないか。

（私自身は、書を愛好する者ではあるが、手書きで考えをまとめ、文章を作成することはもはやできなくなってしまってゐる。「手書き」とは、自動車や電車が存在する現代における、ランニングやウオーキングのやうなものか…）

十一　他に読書感想文や読書指導について所感がありましたら入力してください。

・このアンケートを通じて、読書指導を充実させていきたいと改めて思いました。

・コンクールは悪いこと、負担が大きいことという心証を与えるような、誘導的なアンケートだとおもいます。

・わかりやすい映像で何もかも説明される時代に、活字を読み、頭で理解する習慣をなんとか身につけてほしいという思いがあります。多忙化という問題はありますが、国語（じゃなくても）教員が生徒の読書感想文を読む時間くらい融通してもらえる学校であってほしいと思います。

・取り組みたい生徒がいるのだから、挑戦する機会は必要と思う。
・読書感想文を書かせていないからといって、読書指導をしていないということにはならないと思います。生徒に、読書の楽しさや有用性を伝えていきたいです。
・教員の負担や、意欲的でない生徒にとっての意義が不明確という点はありますが、生徒が内省を深め、それを文章にすることも、それを教員と分かち合い推敲することも他に変えられない有意義な教育活動であると毎年、実感しています。中には卒業の際に、高校生活で一番心に残ったこととして読書感想文の校内選出と推敲を挙げる生徒に接したこともあり、確かにその後に文章力の向上や、読書の質の向上などが見られ、その生徒にとってターニングポイントになったのだと感じました。
・本来、読書を促進するためにある読書感想文が、かえって読書嫌いを促進している部分はある。プロセスとして、①読書に興味を持つ活動を促進する　②読書を始めた人、続けている人に読書感想文を紹介する（強制はしない）というプロセスで行い、生徒が主体的に行うよう促す必要がある。
・一斉に課すと、（洞察力や思考力に優れた）一部の生徒の益にするために、（やる気のないあるいは分からない）多くの生徒を犠牲にしているような感があることには賛同します。そうさせないためにも、「一冊の本を読んで論理的な文章を書く」ことを目標とした言語活動の一環として、国語の授業で指導できる教材とスキルとゆとりが欲しいです。
・授業で行われる「読書」は、教材の読解であり、趣味の読書ではない。しかし、いわゆる読む能力を高めることは、趣味としての読書においても本の中に新たな気づきや感想を抱く端緒となり、まったく無関係の取り組みでもない。読書感想文を宿題として課すことで自身の「読む能力」の高まりに生徒自身で気づくことができれば、非常に有意義であると考える。　また、１０代の瑞々しい感性によって生まれた感情・思い・考えは、彼らの人生においてかけがえのないものであるが、それを「言葉」として表現することにも意味がある。本を読んで「つまらない」「好きだ・面白い」と一言で感想の表現を済ませる者が多いが、人間の感想はそのように単純なものではない。自分の抱く感情・思い・考えに向き合い、どのような名前をつけるのか、どんな「感じ」だと説明するのか、真剣に取り組むことができれば、これもまた非常に有意義な時間を過ごすことになるだろう。　読書感想文に関わる読書指導を行う場合、教員は、上記のような活動を生徒ができるように、生徒はどのような表現をすると良いのか、あるいは生徒の書いたこの表現はどのように良いのかを伝え、生徒の読書活動を「後押し」するような関わりが望ましい姿であると考える。コンクールという形で評価をするのは、いわば副次的な取り組みである。たとえコンクールがなくとも読書感想文は生徒に課す必要があり、教員はその活動を後押しするべきである。
※「意識調査」の調査項目を御覧になって、不愉快な思ひをされた先生もいらっしゃるやうである。その点は申し訳なく思ふとともに、反発をお感じになりながらも、真摯に御回答を寄せてくださったことに満腔の謝意を表したい。また、各所において、補足意見に反論を述べたり、現状への批判を展開させていただいたりしたが、一部「売り言葉に買ひ言葉」になってしまったところがあるにしても、先生方の読書指導に係る取り組みを否定したり、非難したりする意図は全くないことを御理解の上、失礼の段は、どうかお許し願ひたい。
※調査結果をここに紹介することで、「国語の先生の本音」を可視化し、読書感想文コンクールの在り方に一石を投じるといふ所期の目的を果たすことはできると考へてゐる。「自分と異なる考へは、できるだけ人の目に触れないやうにしておきたい」といふ考へには与しない。読書感想文コンクールが今のままであることを願はれる方には、快い問題提起ではないかも知れないが、ネット上では、この読書感想文コンクールが、怨嗟と嘲笑の的にされるやうになって久しい。（「学校の先生が読書感想文を書かせるのは、教育委員会からノルマを課せられてゐるからだ」とか、「利権が絡んでゐる

からやめさせてもらへないのだ」など、びっくりするやうな回答が質問サイトに寄せられてゐるのを一再ならず見たことがある）「中の人」である吾々が何も気づかぬふりをして「お花畑」に安住してゐるわけにはいかない。

※コンクールの存続を願はれるにせよ、廃止を望まれるにせよ、コンクールが望ましい方向に進むためには、それぞれの先生が、御自身のお考へを明確にしていただきたいものである。自身の指導方針や、担当されてゐる業務量に照らし合はせて、「読書感想文コンクール」の入り込む余地がないのならば、「宿題にはしません」「審査員は引き受けません」と、毅然として断ってほしい。また、「受け持ちの文学青年にこのコンクールを勧めてみたい」とか、『現代の国語』の言語活動として、新書本の書評を取り入れてをり、生徒の力試しにこのコンクールを活用してみたい」とお考へになるならば、「審査員を引き受けてもいいですよ」と図書館担当の先生に相談されてみてほしい。（私もそのやうにさせていただく可能性はある）それでも応募する生徒がをらず、審査員のなり手がゐなければ、需要がない訳なのだから「読書感想文コンクール」は無くなっても仕方がない。しかし、右に述べたやうな形で、このコンクールを積極的に活用したいとお考へになる先生が一定数をられ、その先生方によって主体的に運営されるのであるなら、このコンクールも、本来の存在意義を発揮できるだらう。

以上、調査結果を御報告し、論考を述べさせていただきました。御協力くださった先生方、本当にありがたうございました。また、早々に御回答いただきながら、集計結果の御報告が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

令和六年二月二十九日

「青少年読書感想文全国コンクール」への対応に関する提言

山口県高教研学校図書館部会
前総務部長　吉野　潤（防府高校教諭）

※ここでいう読書感想文とは、学校図書館協議会主催の「青少年読書感想文全国コンクール」への応募作品のことであり、本文は、先生方が授業等において指導される作文・小論文に対しての意見ではありません。

昨年度来、当該コンクールに応募するために読書感想文の作成を宿題とすることの是非について問題提起をしてきたところである。今年２月から４月にかけ、県内の主として国語の先生方を対象に意識調査を実施し、４４名の回答が得られた。宿題として課すことを是とする先生が１１人、自由応募（または応募しない）を良しとする先生が２９名であった。また、コンクールの存続を訴える意見と、学習活動としての問題点や教員・生徒の負担を指摘し、コンクールの廃止を求める意見は、ほぼ同数（存続２０、廃止２２）であった。このように考えが二分している状況においては、コンクールを所与のものとし、宿題にして当然という発想は改める必要がある。当面は、一方の考えを他方に押しつけることなく、各先生が御自身の学習指導計画の中で、賛同できる範囲で作品を募集されるかどうかを判断されたい。また、生徒に対しては、一律に作品提出を強制しないようにしていただきたいものである。（調査結果は、後日ＹＳＬＡのＨＰに掲載するので参照いただきたい）

令和５年７月４日に文部科学省から発出された「初等中等教育段階における生成ＡＩの利用に関する暫定的なガイドライン」で、読書感想文が名指しされ、次のような留意事項が挙げられている。（下線は引用者による）

長期休業中の課題等について（文章作成に関わるもの）（６頁）
従前から行われてきたような形で、<u>読書感想文</u>や日記、レポート等を課題として課す場合、<u>外部のコンクールへの応募などを推奨したり、課題として課したりする場合</u>には、次のような留意事項が考えられる。

① AI の利用を想定していないコンクールの作品やレポートなどについて、生成 AI による生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出することは評価基準や応募規約によっては不適切又は不正な行為に当たること、活動を通じた学びが得られず、自分のためにならないこと等について十分に指導する（保護者に対しても、生成 AI の不適切な使用が行われないよう周知し理解を得ることが必要）。
② その上で、単にレポートなどの課題を出すのではなく、例えば、自分自身の経験を踏まえた記述になっているか、レポートの前提となる学習活動を踏まえた記述となっているか、事実関係に誤りがないか等、レポートなどを評価する際の視点を予め設定することも考えられる。
③ 仮に提出された課題をその後の学習評価に反映させる場合は、例えば、クラス全体又はグループ単位等での口頭発表の機会を設けるなど、まとめた内容が十分理解され、自分のものになっているか等を確認する活動を設定する等の工夫も考えられる。

これによるならば、読書感想文は、不正防止を十分に指導し、評価基準を予め定めた上で書かせ、提出後も指導を行うという手順を踏んで初めて「課題」として成り立つものである。生徒が不正をはたらくとしたら「宿題対策」としてだろうと考えられる。先例があるからといって安易にコンクールへの応募を勧奨（または強制）することや、単に作品を提出したかどうかいうことを以て成績に加点や減点をすることは、不正を誘発する可能性があることに留意しておく必要がある。（運営する側としても、不正対応に責任を持つことはできない）

多くの学校が参加する形で読書感想文コンクールを存続させるためには、「課題」として書かせて応募させるという前提を廃し、書きたいと思う生徒が自発的に応募するものとなるよう意識を変革していく必要がある。

また、文部科学省は、令和元年７月２４日に「コンクールやイベント等を実施する団体」に向けて「学校現場の負担軽減に向けた協力依頼」を発出しており、「作品募集をする際の留意事項」として次の２点を依頼している。（下線は引用者による）

１．周知方法について
学校への子供・家庭向け周知等の依頼は厳に精選いただき、学校を経由しない方法（公共施設等での配布、インターネットや広報誌への掲載など）を活用いただくことを御検討ください。学校に依頼せざるを得ない場合も、学校への依頼方法は教育委員会等の判断に、<u>周知方法は各学校の判断にそれぞれ委ね</u>ていただくなど御配慮をお願いします。

２．作品提出等の方法について
作文・絵画コンクール等について、学校単位での応募や学校による審査や取りまとめを要件としない、また、<u>学校経由での子供への周知を求めない</u>ようにするなど御配慮をお願いします。

作品を募集するということは、その学校の先生に、審査や取り纏め等の手を煩わせるということである。また、コンクールの実施主体に向けて、文部科学省から既にこのような依頼もなされている。これらのことから、作品募集（告知）を行うかどうかという判断は、トップ・ダウンで行われるものでなく、それぞれの学校において、直接指導に当たる先生の同意を得た上で、主体的になされるものであるという点にも留意しておきたい。

令和５年９月２９日

あとがき

山口県高等学校教育研究会学校図書館部会　総務部長　山﨑貴久

本部会の諸活動にご理解いただきご指導ご鞭撻を賜りました関係者の皆様、運営にご尽力いただきました役員の先生方、また、日々高校生の読書活動の充実のために、学校図書館の運営に創意工夫を重ねていらっしゃる各校の先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

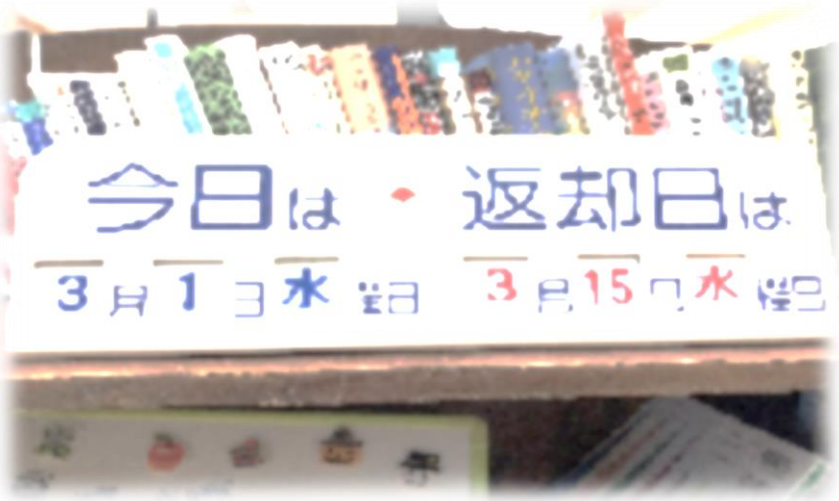
今年度より読書ノート事業を廃止したことに伴って部会の運営に関して多くの変化がございました。輪番制となって４年経ち、今後も図書館活動の充実発展に寄与していくためには、今一度新たな視点を持って持続可能な部会運営を目指していく必要性があると感じております。変化には多くの時間と労力が伴いますが、今後も誠心誠意取り組んでまいりますので、どうぞお力をお貸しいただけますと幸いです。

今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

図書館研究　第２９号

高教研学校図書館部会　総務部

〒747-0802 山口県防府市中央３－１
（山口県立防府商工高等学校内）
担　　当　　：山 﨑
（yamasaki.takahisa.uj@m.ysn21.jp）


今日は
返却日は
3月13日水曜日
3月15日水曜日